

このまちには塩の道から続く闘牛の文化とそれを支える人たちの情熱が息づいています

誇れよ闘牛

東北唯一の真剣勝負

誇りをかけ、強さを求める牛たちが目を見開き、鼻息を荒げて角と体をぶつける真剣

勝負。これが東北で唯一、久慈だけで開かれている闘牛大会です。

6月14日、平庭闘牛場で全国闘牛サミットin久慈記念闘牛大会を開催。36頭の猛



全国闘牛サミット協議会

6月14日、全国闘牛サミットin久慈が開催され、まちが闘牛で盛り上がりました。長い歴史と人の情熱に支えられた久慈の闘牛。誇るべき地域の財産を地元のわたしたちも一緒に支えていきましょう。

闘牛を行っている全国9市町が加盟。闘牛を守り、より盛り上げていくため交流を進めています。来年度は島根県隠岐の島町で同サミットが開催されます。
△構成市町＝◇久慈市◇新潟県小千谷市・長岡市◇島根県隠岐の島町◇愛媛県宇和島市◇鹿児島県徳之島町・天城町・伊仙町◇沖縄県うるま市

ーダーを決めた方法が「角突き」です。

牛による18番の取り組みは約3千人の観客を熱狂の渦に巻き込みました。年々、盛り上がりをもせる久慈の闘牛。そこには塩の道から続く長い歴史とそれを支える男たちの情熱がありました。

始まりは塩の道

久慈の闘牛の歴史は塩の道が物流の主になっていた江戸時代までさかのぼります。本市は古くから日本短角種の生産地。田んぼや畑を耕したり、荷物を運ぶために多くの牛が飼育されていました。

牛たちはこの地で作られた鉄や海岸でたかれた塩を背に乗せ、盛岡市や秋田県、遠くは新潟県まで運びました。その際、隊列を組む牛たちのリ

支えるのは人の情熱

しかし闘牛の生産にはリスクが付きもの。通常、牛の雄は去勢され肉用牛として飼育されますが、目つきや体つきなどで素質を見込まれた闘牛用の牛は去勢せず、肉用牛とは別に飼育されます。

強さを信じ込ませ、トレーニングで鍛えられた闘牛用の牛は筋肉質で肉が固くなるため、闘牛として買い手がつかなかった場合は、肉用として売ろうとしても高くは売れません。闘牛の生産は生活に直結する厳しいリスクを負うものでもあるのです。

それでも久慈の闘牛が続く理由。それは勢子として牛も操る生産者の情熱にほかありません。「強いものへのあこ

がれ」と「牛が好き」という気持ち。そして牛や闘牛の魅力を知ってほしいという強い思いが、このまちの闘牛を支えているのです。

平庭に地元の声援を

6月14日、闘牛大会の開催後、会場を移して全国闘牛サミット協議会が開かれました。一堂に会する全国の闘牛家。闘牛を守り、さらに盛り上げていこうと活発な意見が交わされました。

協議の部では各地域が抱える課題ごとに情報交換も。闘牛数の減少について、新潟県長岡市は平成16年の中越地震で多くの牛を失った経験と復興に向けた取り組みを紹介。勢子の育成については、

鹿児島県天城町が、人口が減る中、牛が好きだからと島に残る若者がいることなどの現状を紹介しました。

地域で異なる闘牛事情。それでも皆、牛に対する気持ちは同じです。熱く語ったサミットは闘牛文化の保存と互いの連携、そして地域の活性化を固く誓い合い幕を閉じました。

長い歴史と多くの人の情熱に支えられた闘牛。このまちにとって闘牛は誇るべきものではないでしょうか。闘牛という財産を地域に残していくためには、地元のわたしたちも一緒に支えていかなければなりません。

さあまずは平庭へ。牛と男たちの真剣勝負にみんなで声援を送りましょう。



いわて平庭高原闘牛会副会長 下館進さん(山形町)

闘牛の産地はここだけ。皆さんの応援があれば久慈の闘牛はもっと盛り上がります。多くの地元の人に角突きのおもしろさを感じてほしいです。



いわて平庭高原闘牛会副会長 柿木敏由貴さん(山形町)

闘牛には多くの魅力があります。もっと知って楽しんでほしいです。皆さんに喜んでもらえるような大会づくりにも取り組んでいきたいと思ひます。

次回大会

闘牛大会は年3回、平庭闘牛場で開催しています。今年の開催日は次のとおり。牛と人が魅せる熱い闘いを皆さんもぜひご覧ください。問い合わせは山形総合支所産業建設課(☎72-2129)へ。

■平庭闘牛大会しらかば場所
8月30日(日)

■平庭闘牛大会もみじ場所
10月18日(日)



小千谷闘牛北斗会 平澤健光さん(新潟県小千谷市)

小千谷の闘牛のルーツは南部牛の角突きです。伝統は今も受け継がれています。これからは牛と人とで交流し一緒に闘牛を盛り上げていきたいと思ひます。



山古志闘牛飼育組合 松田淳さん(新潟県長岡市)

久慈には牛の生産でお世話になっています。今大会は本当に良い大会でした。今後もPRや交流をして久慈の闘牛を応援していきたいと思ひます。

地元にもっと知ってほしい

久慈の闘牛応援しています